

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1196500415		
法人名	社会福祉法人酒青会		
事業所名	グループホーム　ときわの家		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区常盤7-5-14		
自己評価作成日	令和7年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://iunseikai.org/home/tokiwa/
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和7年3月22日

【事業所に特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

面会や家族との外出や外泊が出来るようになり、家族も入所者も喜んでいただけています。日々の食事でも好評を得ているためほぼ皆さん全量飯召し上がっています。健康面も体調管理をしっかりと行って、体調が悪い時でも24時間主治医と連携を取りながら早めに対応をすることができています。レクリエーションや手作業など楽しんで頂き、自立されている方も多いため、掃除や皿洗いなども職員の手伝いができる方が多いので一緒にを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・利用者それぞれの生活の中に笑顔や安らぎがあることが大切にされ、和やかな空間であることを意識されている。また、営業かけや対話に力が入れているため、家族からも「慣れるまでや体調不良時にきちんと対応してくれて感謝している」、「本人の状況に合わせて生活が楽しくなるように柔軟な対応をしてくれる」、「訪問する度に本人が良い表情をしているので安心して」との評価をいただけており、利用者の潤いのある暮らしに繋がっている。
 ・運営推進会議では、幅広い内容での意見交換が行われ、地域の取り組みやイベントの情報をいただくことで事業所の活動の幅が広がることに繋がり、有意義な会議運営をされている。
 ・目標達成計画の達成状況については、職員の知識や技術向上のために、定期的な研修の開催や職員同士の連携の確認等が実践されたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として「いつまでも自分らしく生活して頂くために」を忘れず実践している。	利用者の持っている能力を大切にすることに重点をおいた自立支援のケアを基本とし、想いを活かす支援が心がけられている。日々の生活の中で理念に沿ったケアをどのように実践できるかを考えながら、ユニットごとの目標が毎月更新されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括のチームオレンジの活動で当施設を会場として使って頂き、地域の方と入所者の交流を行っていく準備段階です。夏には地域のお祭りに家族と入所者が参加して楽しんだ。	地域の方との交流を深め、事業所を知ってもらうために地域の祭りなどのイベントには積極的に参加され、地域のボランティアを受け入れるなど日常的な交流の場を広げていくための努力をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や地域の方に施設内をみていただき、見学をしていただき、ボランティアの受け入れもできるように声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進委員会で参加者から貴重なご意見をいただいている。	運営推進会議は、利用者の生活の状況を知ってもらうことで運営に関しての具体的な意見をいただける場となっている。参加者から地域交流の情報をいただいたり、災害時の交通情報に関する意見をもらうなどサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者の方の入所時の様子を伝えていくことで施設の実情も伝わり、ケアサービスの取り組みも理解していただいている。	日頃から相談や話し合いの場が設けられており、困難事例へのアドバイス等をいただいている。また、地域包括支援センターとの連携も図られ事業所の取り組みに関する理解も得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク会議、身体拘束防止委員会を毎月行っている。ヒヤリハットから事故防止につながる事例検討や、研修を通じて身体拘束を絶対しないように職員に伝えている。	身体拘束をしないことを前提とした取り組みが行われ動画を視聴できる研修体制も整えられている。言葉によって行動を過剰に制限してしまわないように意識的に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、日ごろのケアの中で虐待に繋がらないようにしている。リスク委員会でも話し合いをしてケアの検討を行い虐待防止に繋げている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や、成年後見制度について学ぶ機会があまりないので、わかりやすい資料などを職員に配布し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはわかりやすいように時間をかけて説明を行っている。不安や疑問点には、理解をしてもらうように丁寧に時間をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	見学時から意見を取り入れ、入所してからも家族や本人の意見や要望を取り入れ運営に反映している。	家族が訪問された際には、話しやすい雰囲気づくりに留意されることで、面会方法の見直しや行事の際のメニューの希望などの意見を聞き取り運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見を積極的に取り入れ働きやすい環境を作っている。	個人面談やアンケートが実施され、細やかなコミュニケーションが図られている。会議の場でも自由な意見交換がなされており、法人全体で職員からの提案が取り入れられるような仕組みを確立されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の閲覧をいつでもできるようにしている。また職員が相談しやすいように努めている。職場環境の改善を法人に提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技術指導は個人に合わせて介護主任が行っており、研修は各自が見やすいように動画を使っている。動画を見て理解できないところは説明を加えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で職員の交流を行っている。地域の交流の機会はあまりないが、地域のイベントなどに参加を行うことがある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期には環境が変わり落ち着かない為、傾聴を行い、困っていることや不安を解消しながらケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活の状態を聞きとり、入所しても同じような環境で過ごせるようにしている。また家族からの要望をできるだけ受け入れるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、契約時、その都度家族や本人から必要としている支援を見極めている。また医療、介護の担当と話し合いを進めて結果を職員に共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向に沿ってその人らしい生活ができるように自分でできることは行って頂き、手伝いが必要となった時には手伝いを行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会ができるようにしている。外泊、外出もしやすいようにしており、家族からの相談を受けやすいように、電話、LINEでやり取りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方からの面会や外出も受け付けている。電話連絡をしたいときには取次ぎを行っている。	地元の神社や公園へ出向くこと、家族や親せき、友人との面談が支援されたり、家族と一緒に外出されるなど関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を営む楽しさを味わってもらうため、合同でレクをしたり、歓談しやすい場所を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移動したり、退所されても相談などあれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向や発言は受け止めて職員本位の対応にならないように職員に伝えて実行している。	利用者ごとの想いを聴き取り職員間で共有されている。ご家族から「入居してから本人が落ち着いた表情をしているので安心している。」との言葉をいただけていることから、本人本位の支援が実を結んでいることが伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴の聞き取りを行い、入所してからの会話の中からも聞き取り、本人の意向を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を観察しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を取り入れて、職員とカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	利用者、家族、かかりつけ医、看護師、介護職員等から総合的に把握された情報をもとに定期的に話し合いの場が設けられている。カンファレンスでは利用者ごとの対応が検討され、介護方法の工夫が話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染対応などで家族が施設に来られなかった時期があったが、今は全館開放し居室への出入りもできるようにした。レクや行事を充実し外出の頻度も多くなっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加できるようになった。地域包括の活動に協力し場所を提供する計画を立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも相談できるような体制を作っている。緊急時には早急に対応してもらっている。	利用者の健康状態や疾病に応じて、適切な専門医を受診できるように情報提供がされている。受診時には普段の状態を的確に伝えられるように支援され、家族との情報の共有にも努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師とは24時間連絡を取り合えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連携を取り情報交換を行っている。退院後施設で継続して対応できるように知りえた情報を基に退院後の対応を職員と検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明している。体調の変化が著しくあった場合は家族や医師とともに施設でどのように対応できるかを検討している。	事業所の取り組みについては事前に説明をされ理解していただいている。重度化に伴う様々な問題に関しては、その都度、本人・家族等とともに職員全体で話し合いながら方針が共有され支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所時に看護師から説明を行い、さらに救命救急の研修を年1回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPの研修時に説明を行い、推進委員会で避難経路や過去の台風による近隣の被害状況を聞き取り職員に伝えている。	年2回の定期的な避難訓練が行われ、避難経路の確認や職員の役割分担などが明確にされており、災害時にとっさの行動がおこせるように職員への意識づけがなされている。	災害発生は予測不可能なことから、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地域住民への協力の呼びかけと、協力者との合同訓練の実施などが行なわれることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権尊重、接遇については研修を行い、不適切ケアが無いように職員全員で勉強している。	人格を尊重するということを常に念頭に置いて支援をされている。言葉づかいに関しては日頃からの注意が必要なことから、気になることは改善できるようにその都度指導されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で希望や自己決定ができるように声かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員本位のケアをしないように、ひとりひとりのペースに合わせて過ごしてもらえるように対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の希望に沿うように見守っている。常に清潔に過ごせるように対応している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間はなるべく一緒に、歓談しながら楽しく過ごして頂いている。おやつレクの機会を作って自分たちで手作りする楽しさを味わって頂いている。下膳、お茶碗洗いを手伝ってもらっている。	利用者の出来ることを活かして食事の準備や後片付けをされている。また夏祭りで焼きそばを提供すること、誕生日にケーキのトッピングをして楽しむこと、皿や盛り付けを工夫する、などの配慮がされている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は個別に設定して、記録をしている。食事量が不足している時には医師の指示の下、エンシュアを提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食、おやつ後、口腔ケアを行って、磨き残しがあれば職員が仕上げています。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで安全に排泄ができるように対応している。排泄時間を個人に合わせて誘導していると共に訴えがあったときに誘導している。	利用者にとって、どのような働きかけや援助が自立支援に繋がるのかが検討され実施されている。その結果、失禁を防ぐ誘導のタイミング、気分を害さないような声のかけ方など、個別性が重視された支援方法となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を提供してなるべく自然排便を促している。回数、量を記録し、長期間便秘にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人のADLにあった入浴方法を行って、週2回清潔を保持している。本人の意思を確認してから入浴している。	利用者それぞれにあった入浴の方法や注意点は職員間で話し合われ共有されている。気持ち良く入浴できるように環境が整えられ、不快を感じない温度や湿度調整、言葉かけにも気を配られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ずつ、希望を聞きながらその日の体調や状態を観察して休息時間や就寝時間を決めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理し薬剤師や医師と連携して用法、用量を理解したうえで、症状の改善や副作用が無いかなを確認しながら投与している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味を生かして楽しく過ごせるようにしている。楽しみにできるような行事やレクリエーションへの参加を促している。気分転換には屋上で花などの鑑賞や水くれの作業を行って役割をもって過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社へ出かけるなど外出の機会を設けている。また家族と自宅へ行ったり買い物へ出かけたりしている。	四季折々の草花の鑑賞などを企画し、季節や地域社会を身近に感じられるように支援をされている。今後は買い物などの個別対応や家族と一緒に楽しめる外出行事などが検討されている。	外出が困難な利用者であっても、戸外へ出かけられるように支援の体制を整えるとともに意識的に外出の機会を増やすための取り組みや工夫を検討されることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は家族が管理しており、買い物等で必要な物は家族にお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で家族と連絡を取ったり、要望があれば施設の電話から連絡を取れるようにしている。はがき等は時々書いて家族もとに郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境は常に清潔を保っている。温度、湿度の調節を一日中している。ユニット内のしつらえも季節ごとに行っている。	季節感が感じられる共用空間となるように装飾がなされ、落ち着いて過ごせる間取りや家具の配置となっている。言葉かけや表示方法が工夫され利用者が迷ったり混乱しないように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内は自宅で生活しているような環境を整えている。フロアでは入所者同士顔が見えるような座り方をしている。自室は個室となっており、一人になりたいときには戻れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた自宅と同じような環境にできるようにしていただいています。乱雑になってしまうときには居室担当と一緒に片付けを行っています。	昔から使用していた家具や家族写真、仏壇などが持ち込まれ、居心地の良い居室となるように支援をされ、入居前の生活習慣を継続できるよう配慮されている。また模様替えをする際も本人と相談しながら行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の役割を持って過ごせるように声掛けや、協力を促している。		